ピンこれ～ピンセットこれくしょん～

長島聖大（伊丹市昆虫館）

はじめに

自然史標本を扱うにあたり、その収集、作製、その他解剖など、調査研究のための作業にはピンセットは必須の道具である。ゆえに我々自然史系博物館スタッフにとって、ピンセットは手の一部といっても過言ではない。

筆者は、これまで趣味と実益を兼ね、200 本以上のピンセットの収集を行っている。「共生のひろば」ではそのうち約 60 本を手にとって試用することのできる状態で展示し、紹介を行った(図 1)。

図 1 ピンセットの紹介展示

ピンこれ～ピンセットこれくしょん～の展示内容

展示に供したピンセットは、主に昆虫の標本作製や解剖などを行うための、精密な作業を行う目的のもので、価格は 100 円ショップで購入できるような安価なものから国外メーカーの高価なもの（およそ 20,000 円程度）のものまでさまざまである。高価なピンセットはスイス製の時計製造用のものを生物研究用に流用したもので、作りの精密さや材質などに優れた特徴をもつ。たとえばスイスの Dumont 社の Dumostar®素材のピンセットは、鋼鉄製のものを凌ぐ硬度でかつ、強酸性や強塩基性の薬剤に対する耐腐食性をそなえた完全無欠ともいえる逸品である。

ピンセットの選び方

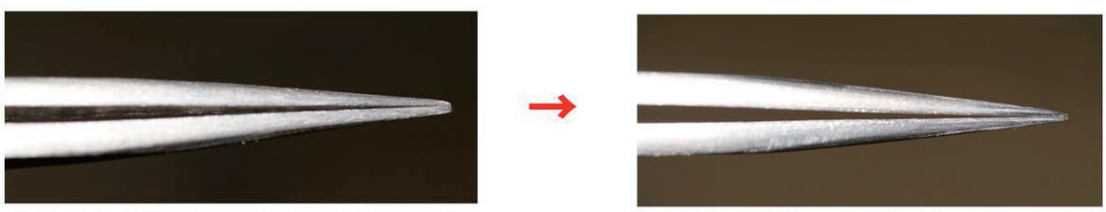
ピンセットは「高価なものが良いもの」ということは事実である。しかし、費用対効果を考慮に入れると、すべての人がどんな作業にも高価なピンセットを使えば良いというわけではない。なるべく安く、それぞれの目的にあったものを選んでもらいたい。ピンセットの選び方の主な要点は 1）形状（好みによる）、2）先端の精度 3）素材：硬さ、耐腐食性、磁性の有無など、4）価格、である。

ピンセットの手入れの仕方

我々にとってピンセットをふくめた日常的に手の一部として使う道具は、手入れの仕方を心得ておく必要がある。どんなに良い道具を持っても、使っているうちに傷んでしまったものを放置して本来の性能を発揮することができなくなっては意味がない。ピンセットにおいては先端の形状と精度が使用者にとって非常に重要で、誤って落とすなどして先端が曲がってしまうと思い通りに使うことができなくなる。そのような時は紙やすりや砥石を用いてピンセットの先端を研ぐことによって、再調整をすることができる。

ピンセットの先端の調整は、油砥石（アメリカ産のアーカンサスストーンと呼ばれるものが最適）を用いるか、市販の耐水ペーパー（粗研ぎ：#400～#800、仕上研ぎ：#1200～#2000）に潤滑油をつけながら研ぐことで行うことができる（図 2-4）。

先端のかみ合わせ精度の悪い 100 円ショップのピンセットであっても、丁寧に先端を調整すれば数千円もするピンセットと遜色ない使い心地になることは、ここだけの話である。



先端の太さがそろっていないピンセット（下側の先端が太い）　→　下側を重点的に砥いだあとにバランスをあわせる

先の曲がってしまったピンセット　→　曲がったところを削り落とす　→　角を取って仕上げる

図 2 ピンセットの研磨による先端の調整例

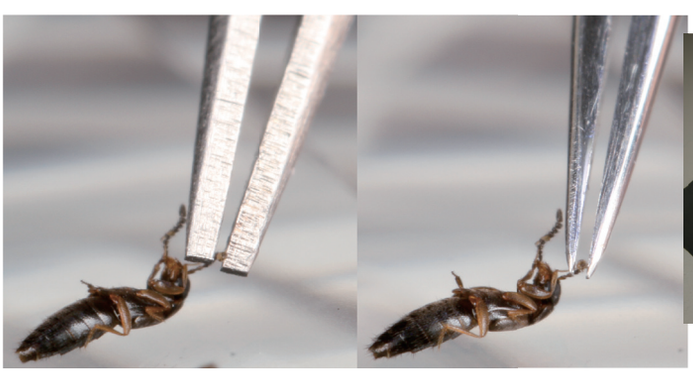


図 3 研磨によって調整したピンセットの先端；左：未調整、右：調整済み（写っている昆虫は体長 3㎜ のハネカクシ科の一種）

図 4 紙やすりによるピンセットの研磨

おわりに

ピンセットをふくめた道具の選び方や使い方を知ることは研究活動を「愉しむ」ための一つの要素である。ピンセットをお持ちでない方は、まずは自分専用のものを一本所有し、大切に使ってみて欲しいと思い、本稿をしたためた次第である。

尚、先端調整の技術などより詳しいことは、日本昆虫学会の和文誌などに掲載するべく原稿を準備中であるため、今しばらく俟たれたい。